

秋本 啄果（あきもと・たくか）

1、プロフィール

大正 15 年青山哀囚主宰「草日社」に参加する。「黎明」「座標」「樹氷」に参加。哀囚亡きあと、七戸短歌会を結成するなど、七戸における文学活動の中心人物であった。

<生没>

1905(明治 38)年8月 23 日 ~ 1989(平成元)年3月 27 日

<代表作>

歌集『独り歌へる』『草日』

<青森との関わり>

七戸町に生まれる。七戸短歌会を結成するなど地元の短歌界発展の礎を築いた。

2、作家解説

明治 38 年8月 23 日、七戸町に生まれる。生家は絹糸工場を経営していた旧家であった。明治 45 年七戸町立七戸尋常小学校に入学、大正 7 年には高等科に進んだ。高等科在学中の大正 9 年、「地上」の同人工藤祐司の添削を受け、本格的な歌作に入る。同 10 年淡谷悠藏らの「黎明」に参加、生活派の口語歌に転ずる。同 15 年青山哀囚の主宰する草日社に参加。また昭和 5 年には「座標」に口語歌を発表。同 7 年に七戸短歌会を結成。7 年 7 月に歌集『独り歌へる』を出版。8 年、船水公明主宰の「樹氷」に同人として参加、文語歌を作る。24 年に山峡社、27 年に七戸群青短歌会、31 年に上北文学社、39 年に第二次群青短歌会、50 年には七戸文学会結成と機関誌発行に終始協力した啄果は、七戸における文学活動の中心的存在であった。53 年歌集『草日』出版。

代表作

遥けき日少年われに「若菜集」読みてきかせし次兄(あに)も世になし

おじろ鷺オオセツカ棲むこの秘境鷹架沼は亡妻(つま)のふる郷

3、資料紹介

○歌集『草日』

図書

1978(昭和 53)年4月1日

188mm×133mm

第2歌集。大正 15 年から昭和 52 年までの歌が収められている。この間に母、兄、妻が生涯を閉じている。淡谷悠藏の序文、杉山勲の口絵、和田四郎の解説など、啄果生涯の短歌活動の軌跡を浮彫にした記念碑である。